

か ちゅうい 蚊に注意！

ヒトスジシマカ雌成虫の生息時期												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
				←—————→								

蚊が媒介する感染症は、日本脳炎、デング熱をはじめ複数あります。いずれの感染症も、ウイルスを持った蚊に吸血されることで感染します。



2014年国内でデング熱に感染した患者が発生

図1は、国内で報告されたデング熱患者数です。2013年までは、すべてが海外で感染した症例でしたが、2014年の夏季、約70年にぶりに国内で感染したデング熱患者症例（計162名）が報告されました（赤色が国内で感染した患者数、青色が海外で感染した患者数です）。

ヒトスジシマカ雌成虫
体長：約5.0mm
背中に1本の白色の線があります。
雌成虫のみが吸血します。



ヒトスジシマカ幼虫
体長：約5.0mm
水中で生活

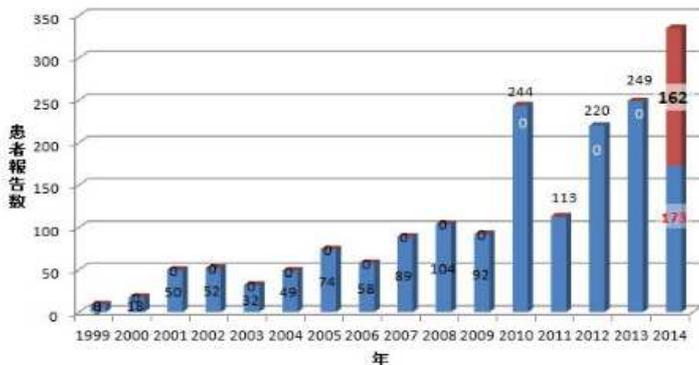


図1 デング熱患者数

図1：国立感染症研究所ウイルス第二室ホームページより転載

ヒトスジシマカのライフサイクル (生活史)

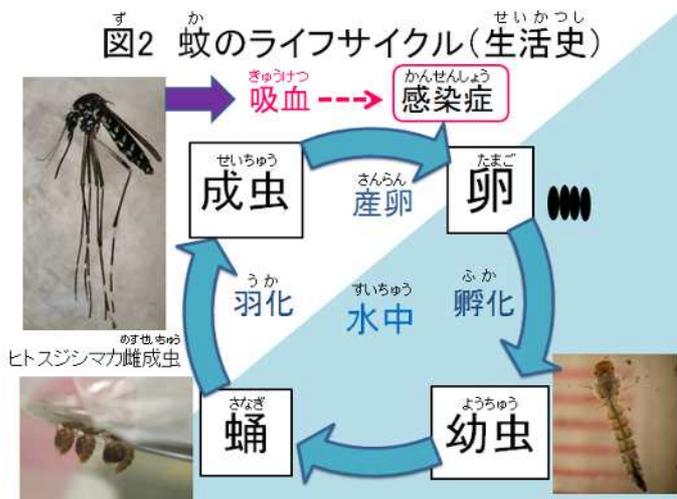


図2 は蚊のライフサイクル (生活史) です。

蚊は、卵から幼虫および蛹までの時期は水中で過ごします。孵化した幼虫は、気温が低い時期では30~50日で、

真夏では約10日で羽化し、成虫になります。成虫の生息時期は5~10月(時には11月上旬)頃で、雌成虫の寿命は約30~40日です。1頭の雌成虫は、一生に約4回産卵し、1回の産卵数は約80個といわれています。成虫では越冬できません。ヒトスジシマカは、卵で越冬し、気温の上昇とともに幼虫が孵化します。卵は乾燥に強く、水があれば孵化します。なお、越冬した卵からデングウイルスが検出されたという事例は国内外で確認されていません。

よぼうたいさく 予防対策

今は人や物の交流が盛んです。今後もデング熱をはじめとする蚊が媒介する感染症が国内で発生する可能性はあります。蚊が発生する場所(発生源)や潜んでいる場所を知り、普段から次の予防対策(1~4)をおこなうことが大切です。

1. 蚊に刺されない

ヒトスジシマカ雌成虫は、早朝から夕方にかけて吸血します。

- 長袖、長ズボンなどの着用
- 虫除け剤の使用

2. 蚊が発生する場所（発生源）の除去と掃除

- 庭などの植木鉢の受皿などの人工容器は、定期的に管理し、水を溜めない
- デング熱を媒介する蚊（ヒトスジシマカ）の卵を除去するため、人工容器

の内部の掃除をおこなう

水が溜まった人工容器や雨水マスから蚊が発生します。



写真：蚊が発生する場所（発生源）（例：人工容器や雨水マス）

- 古タイヤには穴を開け、タイヤ内部に雨水などを溜めない
- ビニールシートなどの窪みに雨水などを溜めない
- 雨水マスの清掃をする

3. 蚊を室内に入れない

- 蚊帳や網戸の使用
- 殺虫剤の使用（周辺の環境に注意して使用しましょう）

4. 蚊（ヒトスジシマカ雌成虫）が潜んでいる場所の除去

- 定期的な庭木の低木の手入れ

- 雑草や下草の除去



はうら きゅうけつ きかい ま
葉裏などで吸血する機会を待っています。



しゃしん せいちゅう ひそ ばしよ
写真：ヒトスジシマカ成虫が潜んでいる場所

にっしや すく しつど たかいばしよ
(日射が少なく湿度が高い場所)

しゃしん こくりつかんせんしやうけんきやうしよ こんちゆうい か がくぶ てんさい
写真：国立感染症研究所昆虫医科学部ホームページより転載

さんこうしりやう としよ 参考資料、図書

1. 国立感染症研究所：ウエストナイル熱媒介蚊対策に関するガイドライン
2. 国立感染症研究所：チクングニア熱媒介蚊対策に関するガイドライン
3. 国立感染症研究所ホームページ：感染症の話（ Dengue 熱とは ）
4. 国立感染症研究所ウイルス第一部 第2室： Dengue ウイルス感染症情報
5. 厚生労働省ホームページ： Dengue 熱に関する Q&A、
(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever_ga.html)
6. 佐々学：蚊の科学、図鑑の北隆館（1976）
7. 松沢寛 北原洋生：ヒトスジシマカ *Aedes albopictus* の生態知見、衛生

どうぶつ
動物 Vol.17 No.4（1966）